

ニュースリリース

トヨタ・モビリティ基金、ドライバーの安全運転意識を高める“起こしたくない猫型ロボット”「ドラにゃむ」の実証実験を実施

2026.1.26 交通安全 タテシナ会議 分科会 ニュースリリース

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(理事長:豊田章男、Toyota Mobility Foundation、以下「TMF」)は、高齢ドライバーの安全運転継続支援の社会実装を目指す取り組みの一環として、車内でドライバーとともに過ごし、安全運転意識を高める猫型ロボットのプロトタイプ開発と、コンセプト検証を目的とした実証実験を株式会社 quantum(代表取締役社長兼 CEO:川下和彦、以下「quantum」)と実施しました。

引き続き、様々な観点からドライバーの安全運転支援につながる取り組みを進めていきます。



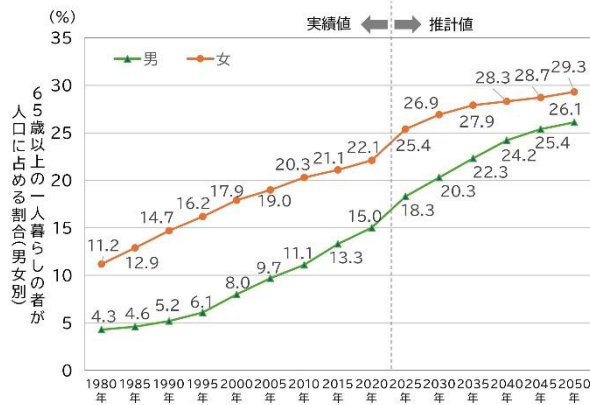
1. 背景

高齢ドライバーが当事者となる事故が重要な社会課題となっている中、TMF は高齢ドライバーの安全運転継続を支援する仕組みづくりを目指し、活動を進めています。2022 年より、株式会社デンソー(以下、「デンソー」)、東京海上日動火災保険株式会社(以下、「東京海上日動」)他と実施している、ドライブレコーダー映像と AI 解析技術を活用した運転診断「ドラみる」の実証実験では、自分自身の運転行動を客観的に知ることにより、運転の癖や習慣が一定程度改善することを確認しました。一方で、運転行動の評価を受けることや自身の映像を記録することへの抵抗感が課題の1つになっています。

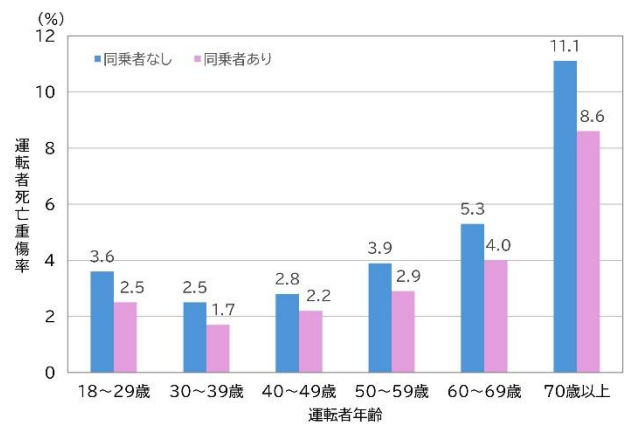
2. 開発経緯

上記の課題に対して、運転を直接評価しスコア化するのではなく、間接的な評価が抵抗感を和らげるのではないかと考えました。そして、「大切な人(子どもや家族など)が同乗していると、丁寧な運転を心がける」、また、その裏返しとして「1人で運転する時は荒い運転になりやすい」という身近な経験や、一人暮らしの高齢者が増加している背景を踏まえて検討を行いました。

その結果、「守りたくなる存在が、リスクのある運転に反応して望ましくないアクションをとる」ことによって、間接的な運転評価をドライバーに提供し、丁寧に安全な運転を促すアイデアに至りました。その1つの形として、通常時はグーグーと寝息を立て、リスクのある運転を感知すると、目を覚まして鳴き声を発する“起こしたくない猫型ロボット”「ドラにゃむ」を制作しました。



【参考】65歳以上の一人暮らしの者の動向
(内閣府 令和7年版高齢社会白書データより作成)

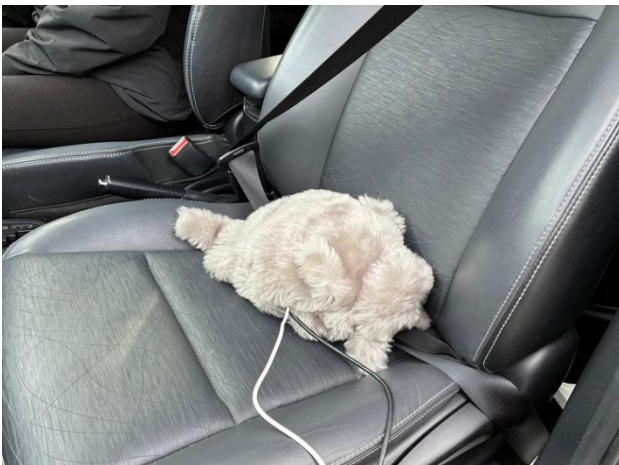


【参考】同乗者有無別の運転者死亡重傷率
(ITARDA INFORMATION No.93 のデータより作成)

3.実証実験内容

本実証実験では、昨年11月から12月にかけて65歳以上の高齢ドライバー7名と20~30代の運転歴の浅いドライバー5名に「ドラにゃむ」を数日間貸し出し、終了時にアンケートやヒアリングにより「誰かが同乗している感覚になったか?」、「安全運転意識に変化があったか?」、「運転の妨げになることは無いか?」などを調査しました。

高齢ドライバーからは、「横に誰かが乗っている、一人ではない感覚があった」、「数日であったが愛着が湧いた」などの声があり、「ドラにゃむ」が守りたい存在として認識される可能性を確認できました。また、「安全に丁寧に運転しなければという意識になった」、「いつもより丁寧に運転をした」など、安全運転を促す狙いの効果も確認できました。加えて、運転歴の浅い体験利用者の中でも普段1人で運転することが多いドライバーからは、「自然な存在感がちょうど良い」、「運転への集中が高まった」などポジティブな評価を得ました。



助手席に同乗するドラにゃむ



体験利用者へのヒアリング

今回得られた結果やコメントをもとに改良を継続するとともに、このアイデアの持つ可能性や価値の社会への提供の仕方について検討を進めていきます。

4. 本実証実験の参画企業と主な役割

TMF : プロジェクト全体企画(実証主体)・実証実験計画・体験利用者募集
quantum : プロジェクト全体企画・ドラにゃむ制作・実証実験支援
デンソー、東京海上日動 : ドラにゃむ仕様検討支援・実証実験支援

以 上

関連リンク・参考資料

[トヨタ・モビリティ基金、デンソー、東京海上日動火災保険、東京大学、ドライブレコーダーAI 解析技術を活用した高齢者安全運転支援の実証実験を豊田市で実施 | 一般財団法人 トヨタ・モビリティ基金](#)

[トヨタ・モビリティ基金、AI を活用した運転診断と身体トレーニングを組み合わせたサービス「ドラトレ」の実証実験を開始 | 一般財団法人 トヨタ・モビリティ基金](#)

お問い合わせ

トヨタ・モビリティ基金 タテシナ会議「高齢者安全運転支援」分科会担当

[お問い合わせフォーム](#)

堀江 080-9870-5535(受付時間:8:30~17:30 土・日祝日除く)

トヨタ自動車は創業以来、お客様、ビジネスパートナー、従業員、そして地域社会等、全てのステークホルダーを尊重しながら、自動車を通じた豊かな社会づくりを目指して事業活動を行なっています。そして、より公益的な活動を行うことを目的に、2014年8月、TMFを設立しました。TMFでは、モビリティを通じた豊かな社会づくりへの貢献に向けて、世界中で移動課題への対応をはじめとした幅広いプロジェクトに取り組んでいます。



TMFは、幅広いプロジェクトを通じて培った技術やノウハウを活用し、多様なパートナーとの協議を通して、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)の考え方にも沿った活動を進め、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。